

氏名	: 福田 淑江
学位の種類	: 博士（看護学）
学位記番号	: 博看第9号
学位授与の要件	: 学位授与基準第4条第1項該当
学位論文題目	: 看護補助者の効果的・効率的な活用に向けての調査研究
研究指導教員	教授 草間 朋子
論文審査委員	(主査) 松山 友子
	: (副査) 竹内 朋子
	: (委員) 福井 トシ子、前田 樹海、草間 朋子

## 論文審査結果の要旨

本研究は、看護補助者の業務等に関する実態および課題から、日本における看護補助者の効果的・効率的、安全・安心な働き方を検討し、看護補助者の制度化の必要性の提案を行うことを目的として実施された。研究の概要は以下の通りである。

1. 医学中央雑誌Web版を用い、病院に勤務する「看護補助者」に関する論文262件を分析した。その結果、研究内容は、看護補助者の役割・業務、教育、看護師・他職種との連携・協働等に分類でき、看護補助者の業務の明確化、教育・研修の必要性が重要課題であることを明らかにした。
2. 急性期病院4施設で就業している30名の看護補助者を対象に、1日の業務内容と所要時間を観察した。その結果、看護補助者の業務は、療養環境、療養生活、診療、情報共有、指導の5大項目に分類でき、中でも「療養生活にかかわる業務」の時間が全業務時間の5割を占めていた。また、観察の中には看護の視点から問題となる事象があったことに言及し、看護補助者に対して医療安全、感染管理に関する教育を徹底する必要性を明らかにした。
3. アメリカハワイ州の急性期病院およびナーシングホームで就業している3名のCNA（Certified Nursing Assistant）を対象に、業務内容やRN（registered nurse）との連携等について半構成的面接を実施した。その結果、ハワイ州のCNAは資格として認定されており、バイタルサインの測定や日常生活援助の一部を業務とし、病院では「診療の補助」にかかわる業務も行っていた。日本における看護補助者の活用を推進するためには、業務規定や養成教育の整備が急務であることを明らかにした。
4. 以上の3つの調査結果に基づき、日本における看護補助者の効果的・効率的な活用に向け、看護補助者を法的に資格化し業務範囲を明確にすること、看護補助者の業務内容に対応した教育・研修を義務づけることが提案された。

本研究は、医療職者間や看護職間においてタスクシフト・タスクシェアの検討が進められる中で、看護補助者に関する実態から現状の課題を明らかにし、看護補助者の効果的・効率的な活用に向け、制度化の必要性を具体的な提案として明示した点は評価できる。

審査会においては、看護補助者の業務内容の種類や所要時間に加え、看護補助者が療養生活にかかわる業務を実施することによる看護の質への影響を客観的に示す必要性が議論され、今後の課題とした。

以上より、本論文は、学位規定第 4 条第 1 項に定める博士（看護学）の学位の授与に値するものとして合格と判定した。

令和 2 年 1 月 23 日

論文審査委員（主査）松山 友子